

2022年度(2023年3月期) 第3四半期

Denka

Possibility
of
chemistry

決算説明会資料

証券コード：4061

デンカ株式会社

2023年2月7日

1 前提 主要指標

2 2022年度（2023年3月期）3Q 決算概要

① 連結サマリー	(前年比)	04
② 増減要因	(")	05
③ 営業利益 増減要因グラフ	(")	06
④ セグメント別内訳	(")	07
⑤ セグメント別増減要因	(")	08-11

3 2022年度（2023年3月期）業績予想

① 連結サマリー	(11月予想比・前年比)	13
② 業績予想修正の主な要因		14
③ 増減要因	(11月予想比)	15
④ 営業利益 増減要因グラフ	(")	16
⑤ セグメント別内訳	(")	17
⑥ セグメント別増減要因	(")	18-21
⑦ 2023年度に向けての対応策		22-25
⑧ 株主還元		26
(参考) 通期 セグメント別内訳	(前年比)	27
(参考) 四半期推移 (セグメント別)		28

	2021年度 3Q累計 (4-12月) 実績	2022年度 3Q累計 (4-12月) 実績	2021年度 通期 実績	2022年度 通期 11月予想	2022年度 通期 今回予想 (1月13日発表)
為替レート (円 / \$)	111.0	135.7	112.1 (4Q 115.4)	138.3 (4Q 145.0)	134.8 (4Q 132.0)
国産ナフサ (円 / Kリットル)	53,800	79,900	56,800 (4Q 65,800)	77,800 (4Q 72,800)	75,900 (4Q 63,900)

(単位：億円)

投資	278	281	356	430	430
減価償却費	176	202	239	260	260
研究開発費	109	113	142	150	150
有利子負債残高	1,357	1,784	1,370	1,640	1,640

ナフサは想定よりも安く推移するも、為替は想定より円高

2022年度(2023年3月期) 3Q 決算概要

単位：億円	2021年度 3Q累計 (4-12月) 実績	2022年度 3Q累計 (4-12月) 実績	(前年比)
売上高	2,840	3,087	+ 248
営業利益	322	261	△ 61
営業利益率	11.3%	8.4%	△ 2.9%
経常利益	301	237	△ 64
純利益	229	※ 88	△ 141

※ セメント事業撤退関連の特別損失計上△170億円（3Q累計）

※ 政策保有株式売却+31億円（3Q累計）

前年比減益

前年比 (億円)

売上高

3,087億円

+ 248

1. 数量差：	(以下参照)	△ 87
2. 売価差：	(以下参照)	+ 335

営業利益

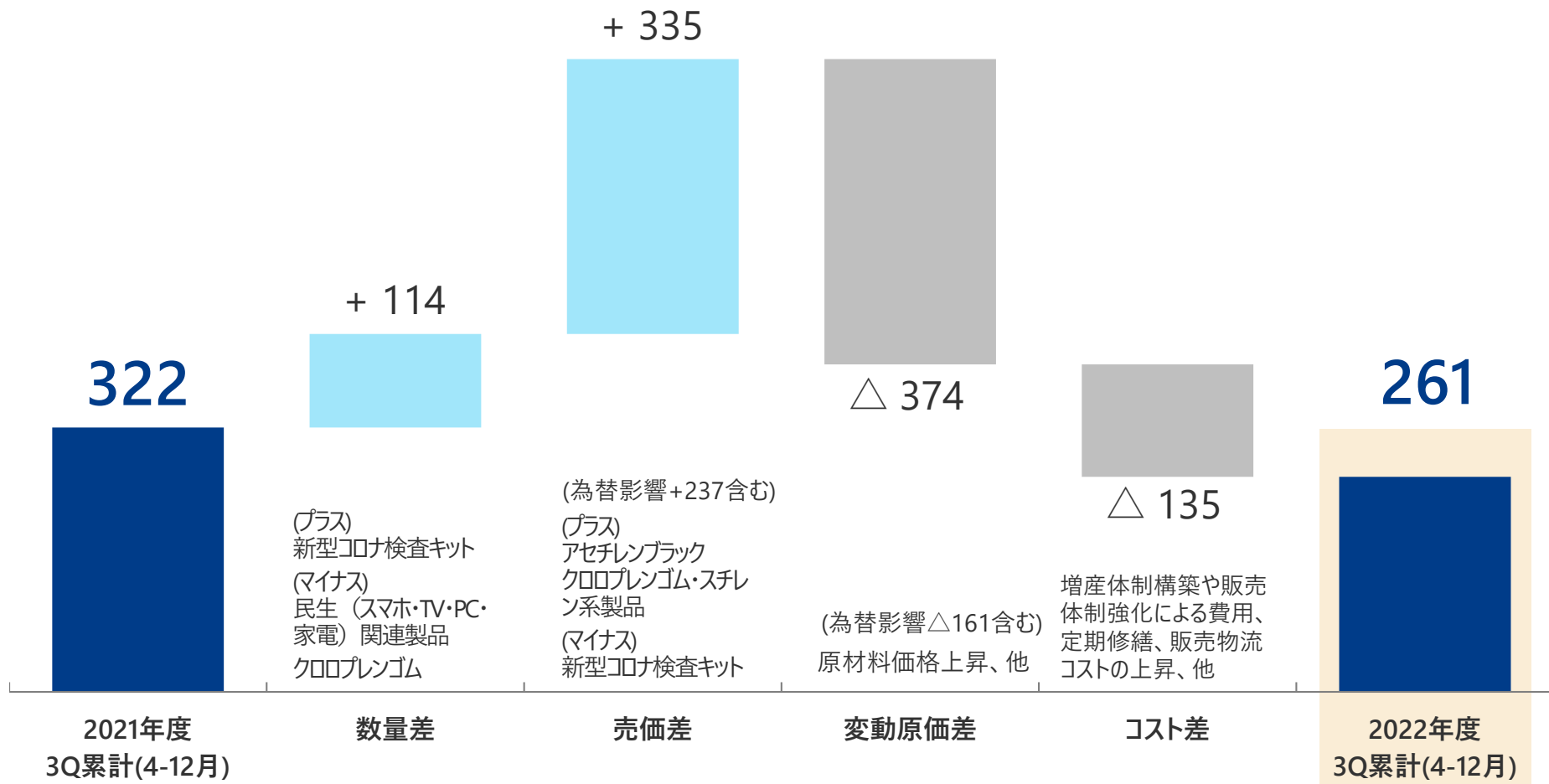
261億円

△ 61

1. 数量差：	(プラス) 新型コロナ検査キット：第7波・第8波流行により需要拡大 (マイナス) 半導体関連・機能樹脂：民生（スマホ・TV・PC・家電）向けは中国市場での景気減速 クロロプレンゴム：産業、接着材、自動車などの各用途で需要が減少	+ 114
2. 売価差：	(為替影響 + 237含む) (プラス) アセチレンブラック：製品価値に見合った大幅な価格改定 クロロプレンゴム、スチレン系製品等：原燃料価格上昇に対応した価格改定 (マイナス) 新型コロナ検査キット：保険点数引き下げによる価格下落	+ 335
3. 変動原価差：	(為替影響△161含む) 原燃料価格上昇、他	△ 374
4. コスト差：	増産体制構築や販売体制強化による費用増加、 上期にスチレンモノマープラントの定期修繕（今回は2018年に実施）販売物流コストの上昇、他	△ 135

**数量差と売価差がプラスも、
変動原価差とコスト差のマイナスが大きく、減益**

単位：億円



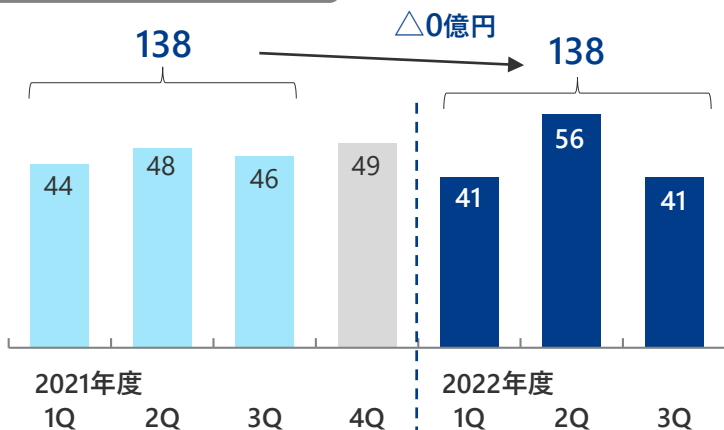
数量差と売価差がプラスも、
変動原価差とコスト差のマイナスが大きく、減益

売上高 単位：億円		2021年度 3Q累計 (4-12月)	2022年度 3Q累計 (4-12月)	増減	数量差	売価差	
電子・先端プロダクツ		662	698	+ 36	△ 85	+ 121	
ライフイノベーション		362	388	+ 26	+ 218	△ 191	
エラストマー・インフラソリューション		775	945	+ 170	△ 46	+ 216	
ポリマーソリューション		927	939	+ 12	△ 177	+ 189	
その他 / 消去差		114	117	+ 3	+ 3	-	
合 計		2,840	3,087	+ 248	△ 87	+ 335	

営業利益 単位：億円		2021年度 3Q累計 (4-12月)	2022年度 3Q累計 (4-12月)	増減	数量差	売価差	コスト差等
電子・先端プロダクツ		138	138	△ 0	△ 40	+ 121	△ 82
ライフイノベーション		119	115	△ 4	+ 195	△ 191	△ 7
エラストマー・インフラソリューション		△12	△ 0	+ 11	△ 15	+ 216	△ 189
ポリマーソリューション		63	△11	△ 74	△ 35	+ 189	△ 228
その他 / 消去差		13	19	+ 5	+ 9	-	△ 3
合 計		322	261	△ 61	+ 114	+ 335	△ 509

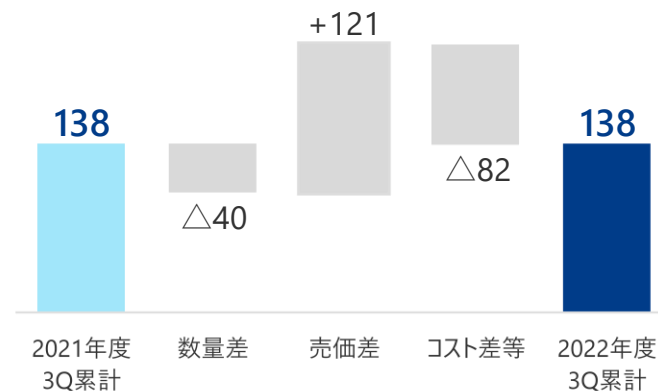
ポリマーソリューションが大幅減益

営業利益 四半期推移



営業利益 差異分析(前年比)

単位：億円



製品別販売動向・コスト

球状アルミナ

- xEV向けは、7月以降、回復基調も、10月以降は民生（スマホ・PC・家電）向け需要が悪化し、3Q累計では出荷が前年を下回る

球状シリカ
高機能フィルム

- 上期は民生（スマホ・PC・家電）向けの低調を、自動車向けの回復で補うも、10月以降、民生向け需要が更に悪化し、出荷が前年を下回る

アセチレンブラック

- 高圧ケーブル向けは、昨年度に引き続き堅調
- xEV向けは、昨年7月以降、回復基調にあり、3Q累計では概ね前年並みの出荷
- 製品価値に見合った価格改定により、販売価格が大幅に上昇

セラミックス基板
(窒化珪素、窒化アルミ)

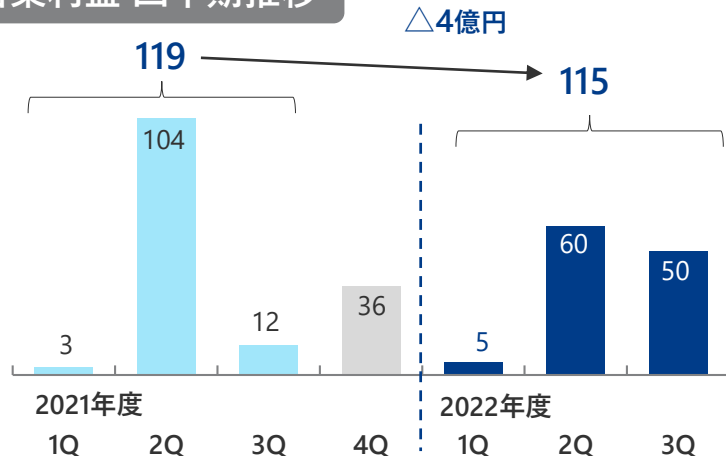
- 電鉄向けは、昨年度に引き続き需要が低調
- xEV関連は、昨年7月以降、回復基調となり、3Q累計では前年並みの出荷

コスト

- 原燃料価格上昇（各製品価格対応）、増産体制構築や販売体制強化による費用増加

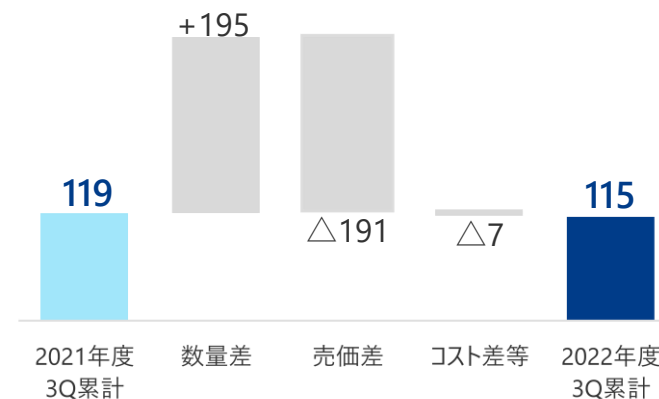
アセチレンブラック価格改定効果も、民生（スマホ・PC・家電）向け需要の悪化により前年並み

営業利益 四半期推移



営業利益 差異分析(前年比)

単位：億円



製品別販売動向・コスト

インフルエンザワクチン

- 市場での供給量に対する消化率が前年を大幅に下回るも、原液新棟稼働による増産効果で出荷が前年を上回る

新型コロナウイルス抗原迅速診断キット

- 昨年度のような日本政府への供給はないが、国内での検査キットによる検査需要拡大に加え、第7波・第8波流行により、出荷が前年を大きく上回る
- 販売価格は、2021年12月31日の保険点数引き下げにより大幅に下落

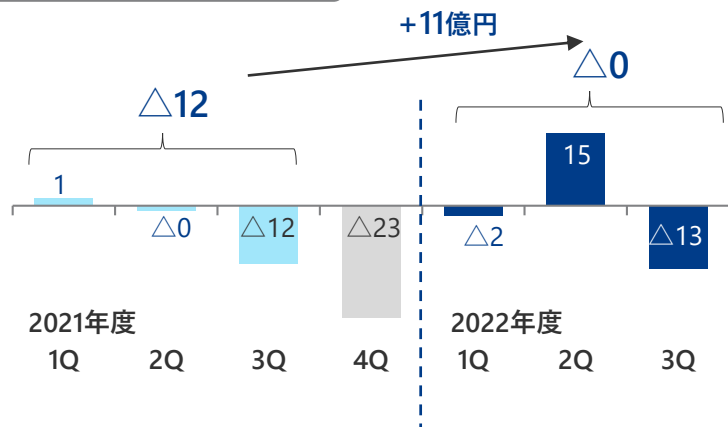
その他検査試薬
(炎症マーカー等)

- 検査需要拡大トレンドの一方、中国ゼロコロナ政策における行動規制および規制緩和後の行動自粛に伴う病院検査需要減少により、出荷が前年を下回る

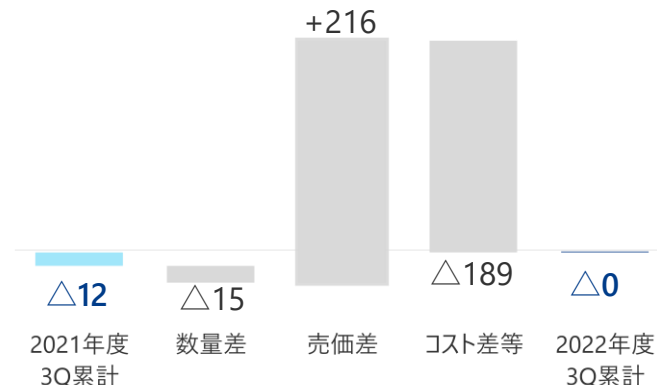
**インフルエンザワクチンが増益も、
新型コロナウイルス検査キットの減益（売価下落影響>数量増影響）により、前年並み**

単位：億円

営業利益 四半期推移



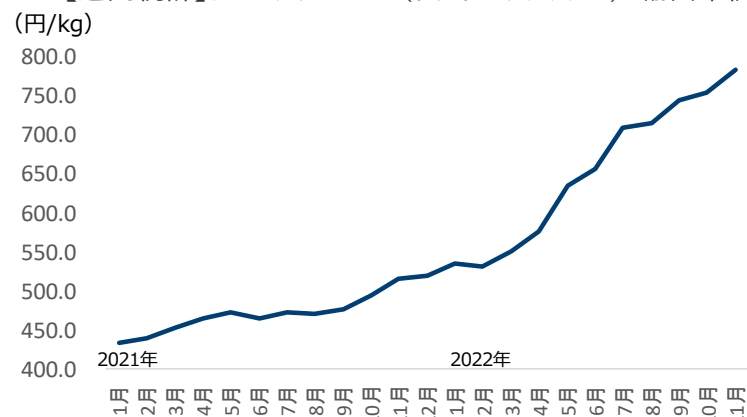
営業利益 差異分析(前年比)



製品別販売動向・コスト

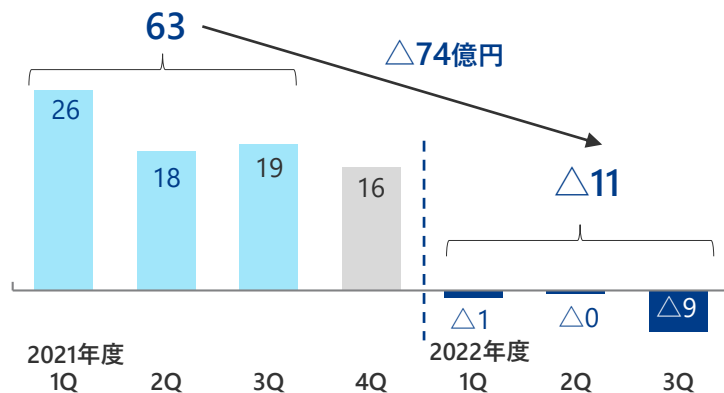
- クロロプレングム**
 - 産業、接着材、自動車などの各用途で需要減に伴う在庫圧縮の動きや、他社品との競争激化により、出荷が前年を下回る
 - 原材料価格高騰に対応した値上げによりスプレッド改善（昨年9月から追加値上げ（第4次）を実施）
- 特殊混和材**
 - 概ね前年並み
- セメント**
 - 2,300円/tの値上げは概ね完了(9月末時点) 3,000円/tの追加値上げは進捗が遅れている
 - 石炭価格が急騰
(2021年度3Q累計：\$ 153/t ⇒ 2022年度3Q累計：\$ 392/t)

【通関統計】クロロプレングム（ドライ+ラテックス）輸出単価



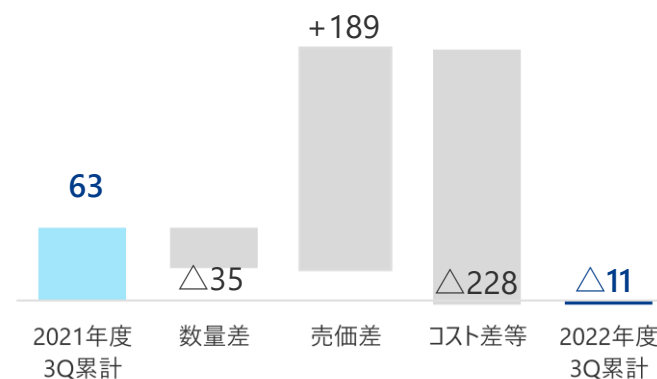
石炭価格急騰によるセメントの大幅なコストアップも、クロロプレングムの増益（値上げ影響>需要減少影響）により、全体では収支改善

営業利益 四半期推移



営業利益 差異分析(前年比)

単位：億円



製品別販売動向・コスト

- MS樹脂**
- 上期は、中国市場の景気減速の影響によるTVやPCのモニター向け導光板用途の低調を、シンガポールでの能力増強による、競合素材からの代替需要取り込みにより補うも、3Q以降は、需要が更に悪化し、出荷が前年を大きく下回る
- AS・ABS・透明樹脂など**
- 世界的な景気減速(家電向けなど)により、流通在庫圧縮の動きが高まり、出荷が前年を下回る
- 食包シート・容器**
- 出荷が前年を下回る
- Toyokalon**
- アフリカ・米国市場ともにインフレによる購買力低下が続き、出荷が前年を下回る
- コスト**
- 原材料価格上昇（価格改定によりスプレッドを維持）
 - 上期にスチレンモノマープラントでの定期修繕（前回は2018年に実施）、販売物流コストの上昇

**原材料価格上昇に対応した価格改定により、スプレッドを維持するも、
景気悪化による需要減少、定期修繕・物流コスト増加により、大幅減益**

2022年度(2023年3月期)
業績予想

単位：億円	2022年度 11月予想	2022年度 今回予想 (1月13日発表)	(11月予想比)	2021年度 実績	(前年比)
売上高	4,450	4,100	△ 350	3,848	+ 252
営業利益	430	330	△ 100	401	△ 71
営業利益率	9.7%	8.0%	△ 1.7%	10.4%	△ 2.4%
経常利益	390	290	△ 100	365	△ 75
純利益	185	120	△ 65	260	△ 140

11月予想から減益

2022年度 通期営業利益予想 330億円（11月予想比△100億円）

①電子・先端プロダクツ△40億円

【数量差△52億円】

⇒高機能フィルム、球状シリカ、球状アルミナなど民生向け製品

- ・需要増加期のサプライチェーン混乱に伴い、市中在庫が膨らんでいた。
混乱が落ち着き、サプライチェーン各社が在庫の圧縮に以前より積極的となっている中、
民生（スマホ・PC・家電）向け需要の急激な減少により出荷が実需以上に下回る見通し

②エラストマー・インフラソリューション△50億円

【数量差△52億円】

⇒クロロプレンゴム

- ・世界的な景気減速により産業・接着材・自動車の各用途で需要が減少し、
在庫圧縮の動きと、中国をはじめとする他社品との競争が激化

11月予想比（億円）

売上高

4,100億円

△ 350

1.数量差：	(以下参照)	△ 285
2.売価差：	(以下参照)	△ 65

営業利益

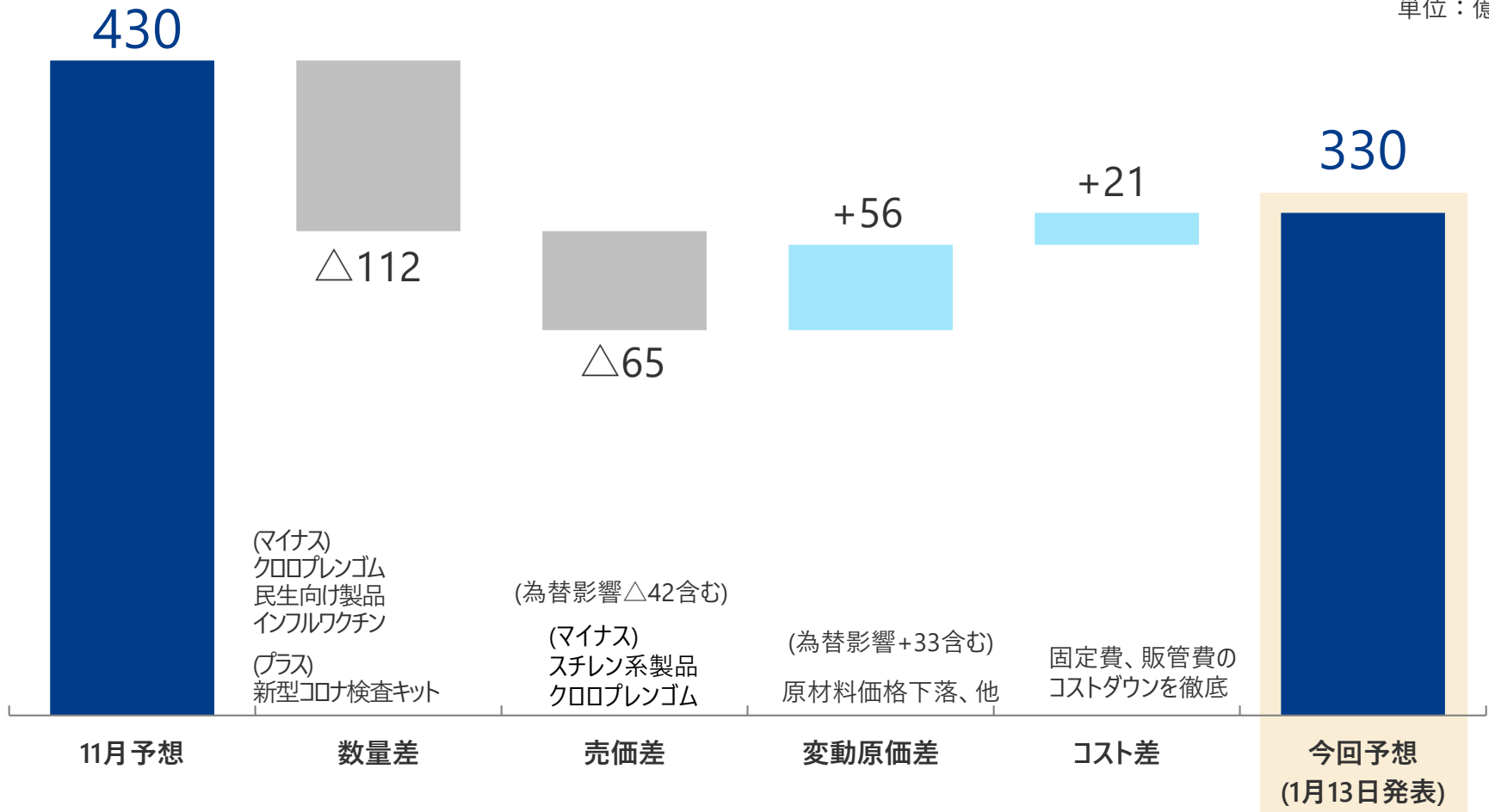
330億円

△ 100

1.数量差	：	(マイナス)クロロプレングム：景気減速により需要が大幅減 民生向け製品（電材関連・機能樹脂）：スマホ・TV・PC・家電向け需要が急落 インフルエンザワクチン：インフルエンザワクチンの接種が想定より低下 (プラス) 新型コロナ検査キット：第8波流行により需要拡大	△ 112
2.売価差	：	(為替影響△42含む) (マイナス)スチレン系製品：原燃料価格下落に伴う価格改定 クロロプレングム：円高影響	△ 65
3.変動原価差	：	(為替影響+33含む)原燃料価格下落、他	+ 56
4.コスト差	：	固定費（修繕費など）、販管費のコストダウンを徹底	+ 21

数量差と売価差のマイナスが大きく、
変動原価差とコスト差がプラスも、減益の見通し

単位：億円



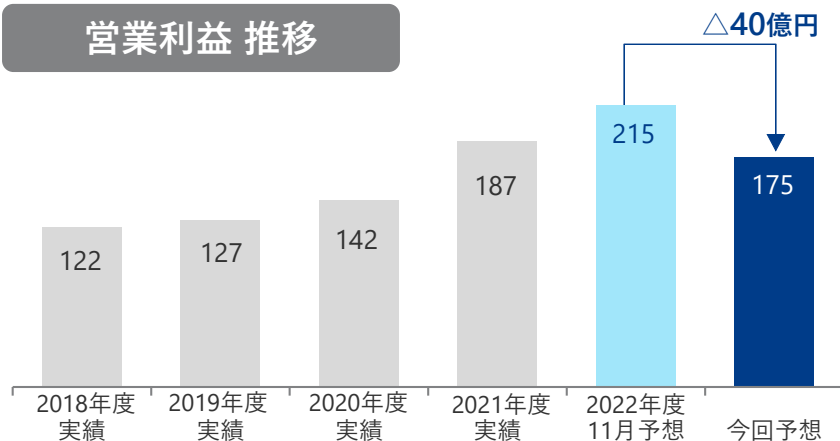
数量差と売価差のマイナスが大きく、
変動原価差とコスト差がプラスも、減益の見通し

売上高	単位：億円	2022年度 11月予想	2022年度 今回予想 (1月13日発表)		増減	数量差	売価差		
			今回予想	増減				数量差	売価差
電子・先端プロダクツ		1,050	950	△ 100	△ 93	△ 7			
ライフソリューション		500	500	± 0	△ 4	+ 4			
エラストマー・インフラソリューション		1,400	1,250	△ 150	△ 124	△ 26			
ポリマーソリューション		1,350	1,250	△ 100	△ 63	△ 37			
その他 / 消去差		150	150	± 0	-	-			
合計		4,450	4,100	△ 350	△ 285	△ 65			
営業利益 単位：億円									
		2022年度 11月予想	2022年度 今回予想 (1月13日発表)		増減	数量差	売価差	コスト差等	
		今回予想	増減	数量差				売価差	コスト差等
電子・先端プロダクツ		215	175	△ 40	△ 52	△ 7	+ 19		
ライフソリューション		130	140	+ 10	+ 7	+ 4	△ 2		
エラストマー・インフラソリューション		35	△15	△ 50	△ 52	△ 26	+ 27		
ポリマーソリューション		25	10	△ 15	△ 10	△ 37	+ 32		
その他 / 消去差		25	20	△ 5	△ 5	-	△ 0		
合計		430	330	△ 100	△ 112	△ 65	+ 77		

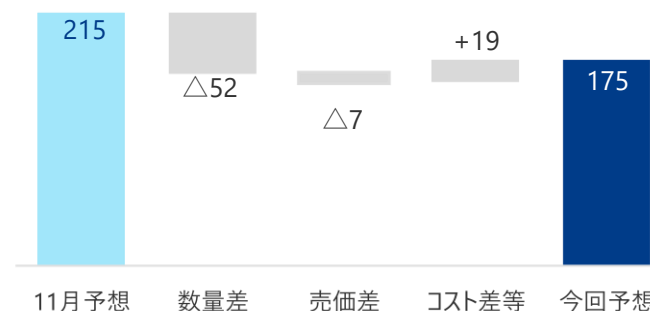
電子・先端プロダクツとエラストマー・インフラソリューションが大幅減益の見通し

単位：億円

営業利益 推移



営業利益 差異分析(11月予想比)



市場見通しと販売動向

(市場)	11月予想時点	今回予想(1月13日発表)
半導体	民生需要が悪化、自動車向けで補えず	11月予想よりも更に民生需要が悪化
xEV	7月以降、徐々に回復傾向	(変更なし)
再生可能エネルギー(高压ケーブル)	堅調な需要が継続	(変更なし)

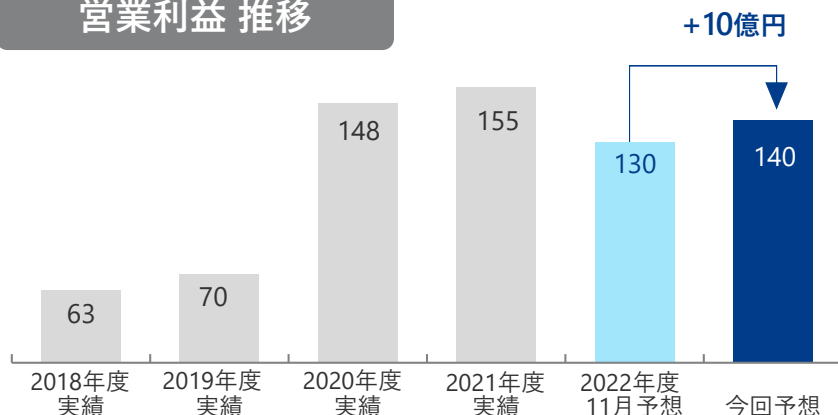
販売動向

球状シリカ 高機能フィルム	} : 民生需要が想定を下回り、下振れの見通し
球状アルミナ	
セラミックス基板 (窒化珪素、窒化アルミ)	: 一部ユーザーでの市場シェア減少により、下振れの見通し
アセチレンブラック	: 民生向けLiB需要減少により、下振れの見通し

民生（スマホ・PC・家電）向け需要が更に悪化し、減益の見通し

単位：億円

営業利益 推移



営業利益 差異分析(11月予想比)

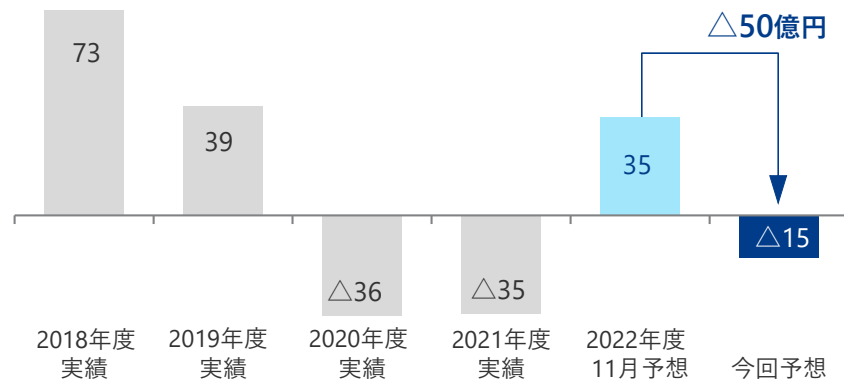


市場見通しと販売動向

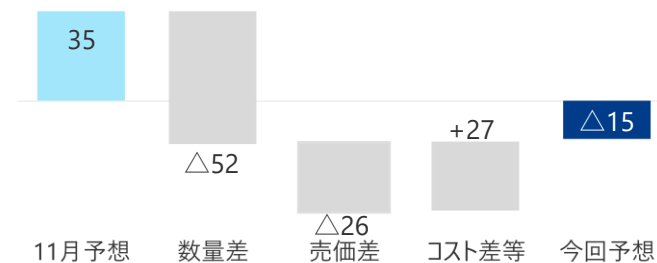
(市場)	11月予想時点	今回予想(1月13日発表)	販売動向
インフルエンザ	一定程度の流行を想定	<ul style="list-style-type: none"> 流行は想定並み ワクチンの接種数は前年比増加も、接種率は想定より大幅に低下 	インフルエンザワクチン : 計画通り1,000万本製造するも、市場での消化率が想定より下回る見通し
新型コロナウイルス	第7波流行(8月まで) 第8波の流行を想定	第8波の流行が想定より拡大	新型コロナ抗原迅速診断キット : 第8波による需要増により、出荷増を見込む(コナ・インフルの同時検査キット含む)
その他検査試薬(炎症マーカー等)	需要拡大トレンドの一方、中国ロックダウンによる病院検査需要の減少	中国は規制緩和も、行動自粛により病院検査需要の低迷が継続	その他検査試薬 : 11月予想並み(炎症マーカー等)

**インフルワクチンの消化率が想定を下回るも、
第8波による新型コロナ検査キットの需要増により、増益の見通し**

営業利益 推移



営業利益 差異分析(11月予想比)



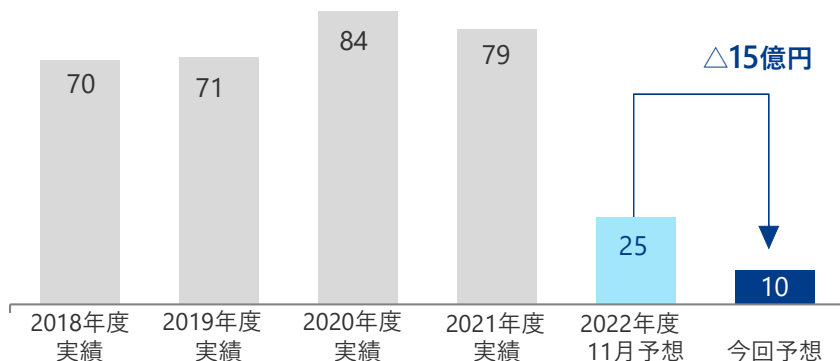
市場見通しと販売動向

(市場)	11月予想時点	今回予想(1月13日発表)	販売動向
クロロプレングム	原材料は8月予想よりも下落 (コークスなど) 需要は2019年度並みを想定	世界的な景気減速により産業・ 接着材・自動車の各用途で需 要が減少	需要減に伴う在庫圧縮の動きや、他社品 との競争激化により、数量が大幅に下振れ る見通し 想定より円高によるマイナス影響あり (11月予想：下期145円/\$ →今回予想：下期138円/\$)
特殊混和材	需要回復が遅れる	(変更なし)	11月予想並み
セメント	一般炭：405ドル/t想定	一般炭：396ドル/t想定	3,000円/tの追加値上げ達成に向けて 交渉も、進捗が遅れている

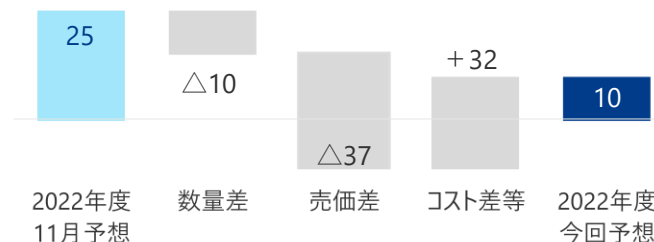
クロロプレングムの需要減少により、大幅減益の見通し

単位：億円

営業利益 推移



営業利益 差異分析(11月予想比)



市場見通しと販売動向

(市場)	11月予想時点	今回予想(1月13日発表)
民生 (TV・PC・家電ほか)	需要回復は想定より遅れ、11月以降となる	需要回復が遅れる
化粧品容器、雑貨など	中国市場の景気減速 下期回復を想定	需要回復が遅れる
食品容器	スーパー、コンビニ向け需要減も、テイクアウト需要増 需要回復が遅れる	想定より需要が減少
Toyokalon	アフリカ・米国市場ともにインフレによる需要減長期化	想定より需要が減少

販売動向	
MS樹脂	: 11月予想並み (MS樹脂の製造販売会社は12月決算)
AS・ABS・透明樹脂など	: 民生や化粧品容器、雑貨などの需要が想定を下回る
食包シート・容器	: 下振れの見通し
Toyokalon	: 下振れの見通し

需要回復が想定より遅れ、減益の見通し

球状アルミナ

【市場シェア：約50%】

- ・ 需要の拡大により、来期は今期を上回る販売数量を見込む

(用途①) LiB冷却機構の放熱材料

(用途②) On Board Charger (OBC) の放熱材料

バッテリーの出力増、小型化、軽量化

⇒ OBCの発熱量増・発熱密度増

OBC対応出力レンジ6kW以上の需要が急拡大

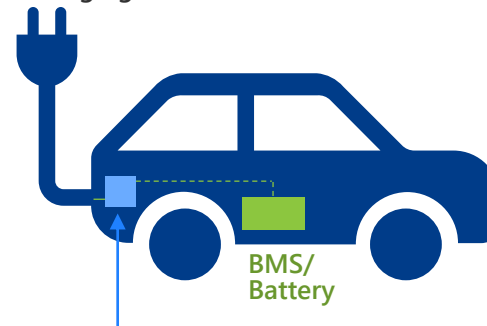
= 球状アルミナ需要の更なる拡大

市場拡大
+ トップシェア

(用途③) 民生向け (半導体封止材用途)

→ グラフィック系の半導体、高速・大容量ルーター、
サーバー向け等で需要拡大も、足元では在庫調整局面

AC Charging



On Board Charger (OBC)

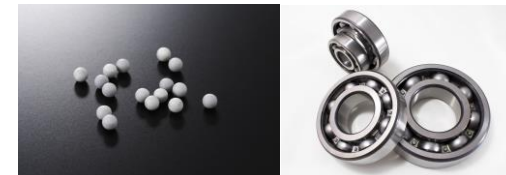
- ・ EV/PHEVに搭載される変圧器 (必ず1台搭載)
- ・ 普通充電器の電源電圧 (AC電流) を
バッテリーの電圧 (DC電流) に昇圧・調整

窒化珪素

【市場シェア：約50%】

- ・ 需要の拡大により、来期は販売数量が今期を上回る見込み
 (用途①) xEVインバーターの放熱基板向け (市場シェア約90%)
 (用途②) 洋上風力発電ベアリングボール向け
 (用途③) EVTラクションモータ用ベアリングボール向け

窒化珪素ボールと、ベアリング (イメージ)

市場拡大
+ シェア拡大

- ・ **モーターの高出力・高周波数化による電食対策、小型化による高速回転対応により需要が拡大**
- ・ **競合品と比較し、価格と品質のバランスを特長に、採用が増加**

(供給体制) 製造能力を継続的に増強中 ⇒ 市場の拡大に対応した供給体制を実現

半導体関連製品

- ・ 足元では民生向け需要減に伴う在庫調整局面であるが、7月以降の需要回復を見込む
 - ✓ 球状シリカ：封止材用途
 - ✓ 高機能フィルム：半導体・電子部品の搬送用キャリアテープ
 - ✓ エレグリップテープ：バックグラインドテープ、ダイシングテープ
 - ✓ エミッター：半導体材料・デバイスの表面観察用途 (ウエハ検査、マスク検査など) および、半導体製造リソグラフィ工程などでの回路パターン作成用途

エミッター



市場拡大

半導体の微細化・微小化により、数 μm の電子線を放出できるエミッターの需要が拡大

デリタクト（G47Δ）

- 遺伝子改変単純ヘルペスウイルスⅠ型を用いた新しいコンセプトの、悪性神経膠腫を対象として世界で初めて承認されたがん治療用ウイルス製剤

**国内外からの強い供給要請に対して、量産体制を確立すべく、供給体制を強化
⇒2023年度は、当社の供給量の増加を計画**

インフルワクチン

- 今期は1,000万本製造を達成するも、市場での消費率が低く、想定を下回る販売も、来期は、販売数量が今期を上回る見込み
 - ✓ 新型コロナウイルスのワクチン接種における行政対応の変更により、来期は、インフルエンザのワクチン接種に与える影響が減少。
⇒ 例年通りの接種状況に戻る見込み
 - ✓ 今期は新棟稼働初年度のため、製造開始まで各種準備が必要であった。
製造2年目である来期は、市場への供給を1か月程度早めることができる

市場で最も消化される供給開始期（9-10月）の出荷を伸ばし、シェア拡大

検査試薬（炎症マーカー）

- 中国ゼロコロナ政策の解除により、来期は、中国市場の需要が回復し、販売数量が今期を上回る見込み

クロロプレングム

【市場シェア：約40%】

価格維持＋需要回復

- 昨年から4度の値上げを実施。市場でのプライスリーダーとして、販売価格を維持
- 用途別・地域別での需要回復動向を見極め、回復期の対応に備える
来期は、上期に市場での在庫調整が一巡し、下期以降、需要が回復。販売数量が今期を上回る見込み

セメント

- 3,000円/tの追加値上げを確実に達成し、スプレッド改善を見込む

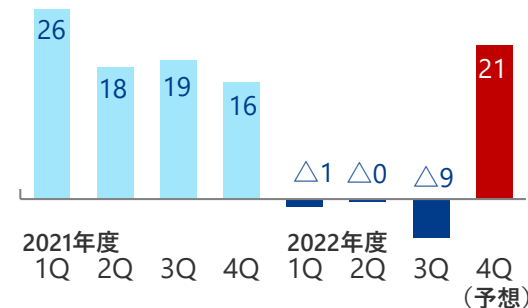
機能樹脂

- ✓ MS樹脂：2022年12月以降、導光板用途やその他の用途で需要が急回復
来期は販売数量が今期を上回る見込み

※MS樹脂の製造販売子会社はシンガポールで12月末決算

- ✓ AS、ABS、透明樹脂：中国向け民生、化粧品・雑貨の需要が回復の見通し
来期は販売数量増加を見込む

- ✓ コスト：2022年度は、スチレンモノマープラントの定期修繕で約15億円計上次回の実施予定は2026年度のため、2023年度はコスト軽減

ポリマーソリューション
営業利益 四半期推移

		2018年度 実績	2019年度 実績	2020年度 実績	2021年度 実績	2022年度 通期予想 (1月13日発表)
当期純利益	(億円)	250	227	228	260	120
1株当たり配当*	(円/株)	120.0	125.0	125.0	145.0	100.0
						(中間70.0 期末30.0)
配当額	(億円)	105	108	108	125	86
配当性向		42%	48%	47%	48%	72%
自己株取得	(億円)	21	-	-	-	-
総還元額	(億円)	126	108	108	125	86
総還元性向		50%	48%	47%	48%	72%
減価償却額	(億円)	229	225	229	239	260
設備投資・投融資額	(億円)	328	369	423	356	430
ROE		10.3%	9.1%	8.8%	9.4%	(6.2%)
自己資本比率		51.0%	50.0%	50.8%	51.7%	(50.6%)
ネットDEレシオ		0.40倍	0.42倍	0.42倍	0.40倍	(0.47倍)

5か年累計
(2018~22)総還元性向
50.9%

大幅な下方修正が避けられない状況のため減配
経営計画「Denka Value-Up」期間（2018～2022）5か年累計の
総還元性向は50%基準の方針を維持

売上高 単位：億円	2021年度 実績	2022年度 今回予想 (1月13日発表)	増減		数量差	売価差
電子・先端プロダクツ	902	950	+	48	△ 110	+ 159
ライフイノベーション	461	500	+	39	+ 207	△ 168
エラストマー・インフラソリューション	1,069	1,250	+	181	△ 92	+ 274
ポリマーソリューション	1,266	1,250	△	16	△ 243	+ 227
その他 / 消去差	151	150	△	1	△ 1	-
合計	3,848	4,100	+	252	△ 240	+ 492

営業利益 単位：億円	2021年度 実績	2022年度 今回予想 (1月13日発表)	増減		数量差	売価差	コスト差等
電子・先端プロダクツ	187	175	△	12	△ 66	+ 159	△ 104
ライフイノベーション	155	140	△	15	+ 168	△ 168	△ 15
エラストマー・インフラソリューション	△35	△15	+	20	△ 40	+ 274	△ 214
ポリマーソリューション	79	10	△	69	△ 32	+ 227	△ 265
その他 / 消去差	15	20	+	5	+ 10	-	△ 6
合計	401	330	△	71	+ 41	+ 492	△ 604

売上高 単位：億円	2020年度				2021年度				2022年度			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q予想
電子・先端プロダクツ	171	196	200	211	210	228	223	240	219	256	223	252
ライフイノベーション	53	109	205	63	60	193	109	99	64	155	169	112
エラストマー・インフラソリューション	198	220	248	252	246	268	261	293	304	325	316	305
ポリマーソリューション	253	251	283	313	318	315	295	339	316	320	303	311
その他 / 消去差	87	65	82	85	35	40	40	37	41	29	47	33
合計	762	841	1,017	924	867	1,044	928	1,009	944	1,086	1,058	1,013

営業利益 単位：億円	2020年度				2021年度				2022年度			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q予想
電子・先端プロダクツ	28	38	36	40	44	48	46	49	41	56	41	37
ライフイノベーション	0	24	114	10	3	104	12	36	5	60	50	25
エラストマー・インフラソリューション	3	△4	△19	△15	1	△0	△12	△23	△2	15	△13	△15
ポリマーソリューション	13	16	25	30	26	18	19	16	△1	△0	△9	21
その他 / 消去差	0	3	3	2	4	5	4	2	6	4	9	1
合計	44	77	160	67	77	175	70	79	49	134	78	69

業績予想の適切な利用に関する説明

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に掲載されている業績の見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

Possibility of chemistry

Denka

本資料に関するお問い合わせ先

デ ン カ 株 式 会 社
コーポレートコミュニケーション部

TEL

03-5290-5511

URL

<https://www.denka.co.jp>